

こ りょう 御陵古墳群 1

大野城市教育委員会



御陵古墳群は現在御陵中学校が建てられている一帯にある古墳群の名前です。昭和56年と57年に中学校建設に先立って二つの丘にあった古墳群を発掘調査しました。それぞれ北丘陵、南丘陵と呼んでいます。北丘陵からは8基の古墳、南丘陵からは6基の古墳と1基の木棺墓が見つかりました。造られた時代は古墳時代の前期（4世紀頃）と後期（6世紀中頃～7世紀前半頃）にわたります。この解説シートでは主に前期の古墳群について説明します。

上の写真は北丘陵の先端部で見つかったN1号古墳です。だいたい長方形をした古墳で、南北方向の長さが約14mでした。そこからは遺体を入れた部分（主体部という）が4基見つかりました。その下の写真がその様子で、一番大きい左側とその右隣が割竹形木棺、その右が壊されていますが、箱式石棺、その右が石蓋土坑墓です。大きいことからかなりの権力者の墓だと想像されます。



上の写真は南丘陵の発掘調査中に飛行機から撮影したものです。木がなくなって土が出ている部分が古墳群です。北丘陵はまだ木が生い茂っています。御陵中学校はこの古墳群の発掘調査が終わってから造成して建てられました。

御陵古墳群では多くの古墳が見つかりましたが、遺体を安置した主体部にはいろいろな形態のものがありました。左に並べた3枚の写真はそれらの様子です。上から箱式石棺（南丘陵の4号墳）、薄い石と木の板を組み合わせたと考えられる墓（南丘陵2号墳）、土器を使ったもの（北丘陵4号墳第2主体部）です。他にも木棺墓や土坑墓がありました。

御陵古墳群からは土器や中国の鏡の破片そして鉄器などが見つかっています。

大野城市では、邪馬台国の女王卑弥呼が中国からもらったと言われている三角縁神獸鏡さんかくえんしんじゅうきょうが江戸時代に1枚見つかっていますが、御陵古墳群出土と伝えられています。おそらく、南丘陵のさらに南側の丘陵からではないかと想像されますが、この一帯が当時の豪族達の重要な墓地であったことが推定されます。